

推薦調書（アイデア部門）

		推薦都道府県	愛知県
地方公共団体名	豊田市		
アイデア名称	救急活動のDXで市民サービスを向上		
連携自治体、企業、団体等	TXP Medical 株式会社、市内 4 医療機関（愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院、トヨタ記念病院、豊田地域医療センター、愛知県厚生農業協同組合連合会 足助病院）		
デジタルを活用したアイデアの概要（デジタルを活用したアイデアの全体概要と解決する個別課題の具体的な内容）	(種類)	①	(左記が①の場合の分野) 医療
	<p>【デジタルを活用したアイデアの全体概要】</p> <p>○民間企業との「救急医療情報システム」の実証試験を通じて、これまでアナログ（紙でのやりとりが中心）だった救急活動のDX化に取り組み、救急搬送される市民の生命を守るとともに、救急隊員等の事務負担軽減を図り、全体として市民サービスの向上を図る。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>○高齢化の進行等により、救急出動件数が増加しており、正確性や迅速性が求められる救急患者に関する情報伝達を円滑かつ効率的に行う仕組みの必要性が高まっている。</p> <p>（令和 3 年中救急出動件数：17,403 件 ※約 30 分に 1 件の割合）</p> <p>○また、件数増加に比例して救急隊員の事務負担が増加しているが、救急隊活動記録票への手書き・消防 OA システムへの手入力が業務の前提であり、今後の更なる救急出動件数に対応しきれない恐れがある。</p> <p>○豊田市は市域が広く（愛知県内面積の約 1/5 が豊田市）、高齢化の進んだ中山間地域も多く有しており、各消防署がカバーするエリアも広大なため、市民の生命を守るためには病院への早期情報伝達と現場滞在時間を短縮する必要がある。</p> <p>【解決する課題の具体的な内容】</p> <p>○ICT 等を活用して情報伝達の正確性や分かりやすさの向上、活動時間の短縮、救急隊員の事務負担の軽減等を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各記録の電子化（ハンズフリー入力、観察情報等の OCR 化等）により、手書き時間の削減・活動時間短縮を見込むことで、救急隊による傷病者への応急処置、病院での診察・治療時間を充実させることができる。 システムによる正確で迅速な情報伝達により、電話のみのやりとりに比べ病院等との情報伝達が円滑かつ正確に実施できる。また、迅速な情報伝達により病院側の医療体制を早期に整えることができるため、搬送後の処置が効率化され、患者の生命を守ることに繋がる。 		

	<ul style="list-style-type: none"> 現場で記載していた救急隊活動記録票をもとに帰署後に消防 OA システムで救急報告書を作成していたが、現場で入力した記録から転記できるため時間が削減できる。また、病院では電子カルテとのシステム間連携ができるため、病院側の作業効率化も同時に図る。これまで現場で手書き記録をした上で帰署後に手入力で消防 OA システムにデータ化していた救急報告書の作成を、現場での電子記録を元にする事で時間が削減できる。また、医療機関での電子カルテとのシステム間連携により、医療機関側の作業効率化を図る。
デジタルの活用により目指す成果（数値）	<ul style="list-style-type: none"> 救急活動時間の削減 ①119 通報～医師引渡、②119 通報～帰署 <ul style="list-style-type: none"> ① 現状：38.1 分（H30） → システム導入後の見込：36 分 ② 現状：71.7 分（H30） → システム導入後の見込：69 分 事務作業にかかる時間の削減（帰署後の OA システム入力に要する時間） <ul style="list-style-type: none"> 現状：15 分 → システム導入後の見込：5 分 アプリ利用各種利用率の分析（搬送情報事前入力率、情報入力所要時間（事前入力・統計情報入力）、OCR 利用率、音声入力利用率等）
本アイデアの特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	<p>○以下の仕組みを利用して、①救急活動時間の短縮と②帰署後の書類作業負荷の軽減を図っている。</p> <p>①現場等での救急活動時間の短縮</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急隊員によるハンズフリー音声入力 バイタル・保険証等の画像 OCR による入力支援 システムでの病院側との患者情報（画像・心電図・臨床情報）の即時共有による受入可否回答 <p>②帰署後の書類作業負荷の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場でのシステム入力情報を消防署内 OA システムに連携することでの書類作成時間の削減 病院側がアプリに入力した予後情報を基にした搬送事後検証の実施
今後の展望	<p>○本実証試験効果を検証し、翌年度以降の導入に向けた検討を行う。</p> <p>○本実証試験の概要・成果等を他自治体等に周知し、各地の救急活動の DX 化への取組の契機としてもらう。</p>

「救急活動 実証試験」概要図

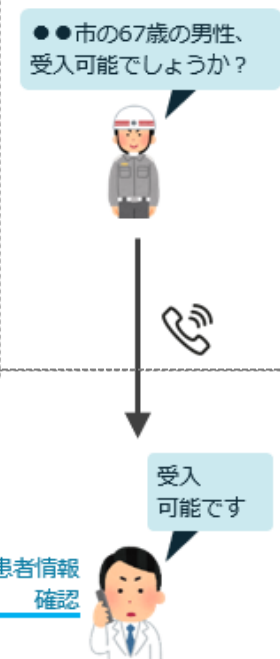
① 現場情報入力

現場到着後、救急隊が患者情報を入力



② 搬送先選定

救急隊の送信したデータを病院医師が確認しながら受入可否を判断



③ 病院引継ぎ時

モバイルプリンタで出力した活動記録票又はデータを病院へ提出



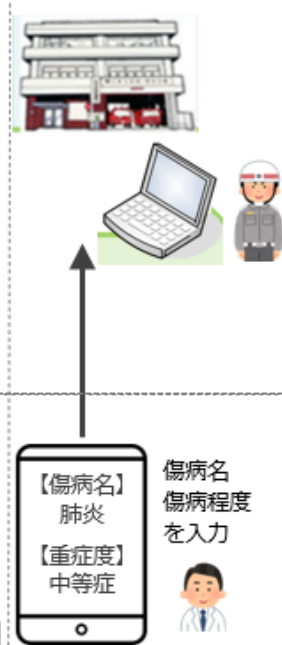
④ カルテ連携

隊員が送信したデータ上のQRコードを読み取り、電子カルテへ取り込み



⑤ 傷病名等回答

病院側で入力した傷病名や程度の回答を消防署のPCで確認し、システムに登録



⑥ データ出力

救急隊の活動情報を定型の各種帳票にファイル出力



「救急活動」概要図（【参考】実証試験開始前）

